

第二十回町民大運動会 大野分館が優勝

雨にもまけず



今年で第二十回を迎えた町民大運動会が、六月二十八日(日)、黒埼中学校グラウンドにおいて行われました。

当日は、朝から小雨がぱらつき、グラウンドに砂をまいてようやく開会にこぎつけましたが、この悪コンディションにもかかわらず、二千五百人の選手、観衆を集めました。競技は、雨でぬかるんだグラウンドのためか、転倒する人も多く、抜きつ抜かれつの際迫したレースが展開されました。昼休みには民踊などが行われ、住民同士の親ほくを深めました。

午後は、雨が強く競技の継続が危ぶまれましたが、大会の熱気は高まるばかりで、雨の中、大会は続行されました。

優勝は、大野分館と木場分館が五十九点で同点でしたが、種目で一位を多く勝ちとった大野分館が大会規定により辛くもその栄誉に輝きました。

- 成績は次のとおりです。
- 優勝 大野分館 59点
 - 二位 木場分館 59点
 - 三位 柳作分館 51点
 - 四位 山田分館 50点
 - 五位 寺地分館 50点
 - 六位 黒鳥分館 49点



入浴のさせ方

お母さんと呼ばれるために

町の保健衛生行事の一つに母親学級があります。母親学級は、これからお母さんになられる妊婦の方を対象に、丈夫な赤ちゃんを生育するために、お産の不安を除き、しっかりとした準備と心がまえを身につけてもらうため、毎月一回開かれています。

六月二十六日(日)、今年六回目の母親学級が黒埼町中央公民館で開かれました。当日は八名の妊婦の方が出席。保健婦さん、助産婦さんから、出産までの健康管理維持や分娩の注意事項が説明され、赤ちゃんの入浴のさせ方を実際に人形を使って練習してみました。人形は泣きませんから簡単ですが、本物の赤ちゃんはこううまくいかないかもしれません。

お昼は、栄養士さんから妊娠期間の食事を作った試食してみました。また、産科医さんからの基礎的な医学知識を勉強し、最後にみんな話し合い、不安を解消して母親学級は終了しました。

昨年度の母親学級の対象者は百三十三名で、受診者は九十名でした。欠席者には次回の案内状が送られますが、できるだけ参加するようにしましょう。

私の視点

町長 浅妻 浅一郎

さる六月九日、午後七時三十分から本町町民木場野球場の二面を使用して、第五回黒埼町農協青年部の野球大会が行われた。激しい農業情勢下において、二百余名からなる盟友が、一層の組織的強化と相互の親睦と融和を深め、農業の近代化と生産性の向上を目的とした本大会に心から敬意と感謝を申し上げると同時に、私は誠にお粗末な一句であるが、今日の農作業と昔の実態を対比して、「いまは

なき 田草に想う 蟹の親子」と激励したのであります。昔は田植後、四つんばいになって手取り一番除草から三番除草さらに勤勉で努力のある農家は翌年のことまで考えて、できるだけ多く除草したものであった。

当時の教訓として、精農は草を見ずして草を取り、中農は草を見て草を取り、情農は草を見て草を取らずと競争するように働き、家族労働で親子兄弟手不足の場合は、年雇、臨時雇等を導入して、増産

に励んだのであります。かつて、野球など考えてみてもできる相談ではなかったのでもあり。昔は勤労による体験の積み重ねで篤農技術的な農業であった。それに比べて現在はもっぱら水管理、稲の生育調査と観察防除など考える科学的農業に変わった。

私は、今ここにその可否を問うのではなく先人の苦勞と努力に感謝することによって、建設的な新しい発想が生まれてくることを反省しなければならぬ。そのようなことから、ふと思いついたのが誠に粗末な句であるが、参考になれば幸甚に思います。

健康を願つて

今年、障害をもつ人の社会への完全参加と平等をめざす「国際障害者年」です。

黒埼町には、脳卒中後遺症で身体が不自由になられた方々が、「親和会」という団体を作っています。昭和五十一年に会が発足し、現在会員は四十一名で、会員相互の親ぼくと一日も早い健康回復と社会復帰が目的です。

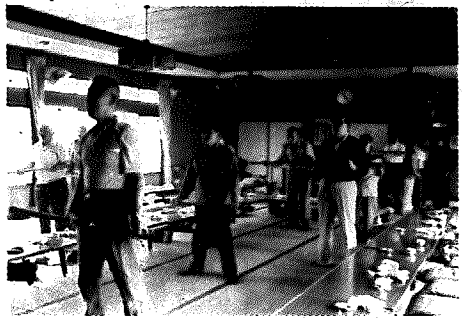
六月三十日(火)、今年二回目の研修会が黒埼荘で開かれました。リハビリテーションとして棒体操をして、栄養士さんから塩分検査とうす味とバランス食の話が聞かれました。また、保健婦さんの日常生活の通し方の個別相談もありました。

親和会では、このような研修会が年七回あります。五月は横越村の北方博物館を見学に行きました。

CPKクラブが快勝!

心配された天候も、当日は風もなくやや暑い日曜日となった。六月二十一日、総合体育館脇のグラウンドで、第二回町民ゲートボール大会が開かれ、CPKクラブが大差で優勝をかざりました。ゲートボールと聞くと老年向けと思われがちですが、近年では青年層の台頭も目ざましく、今大会は十チームが参加。二ブロック

▲第二回黒埼ゲートボール大会



▲棒体操をする会員のみなさん

か会合は静かで外出も控えさみだつたのですが、会合を重ねるたびに活発になり、他の団体の旅行に参加する人もいます。

しかし、外出したくともできない障害者があることも事実です。また、他にもいろいろな障害をもつ人がいます。障害という問題は

に分け星のつぶし合いを行ない熱戦を展開。

優勝戦は大明AとCPKクラブの顔合せ。CPKクラブが18対9で大明Aを下し優勝をものにしました。

親和会会員 小林芳一 (山田上)



私の一日

私の一日は朝の散歩から始まります。季節により違いますが、今ごろは五時に起き仕度をしてすぐ出かけて約一時間町の中を二週りしてきます。毎日同じコースでジョギング、犬を散歩に連れてくる人、牛乳屋さん、新聞屋さん、みんな顔なじみになって、「お早よう」と元気に声を掛けながら「今朝は寒いですね」とか「今日は天気になりそう」と、朝のあいさつをかわし、時には知らない人に、「あなた、根気がよいね」と言われ元気つけられることもあります。

散歩を終えて家に着くと、六時半ごろ足が疲れて、ラジオを聞きながら七時ごろまで横になっております。朝食は八時で、朝食後、そのうじをします。

夕食後、九時ごろまでテレビを見ておりますが、もう眠くて九時半には、床の中でぐっすり毎日で。以前、三間醫院の老先生の奥さんと散歩した時に、奥さんに自分の一日は自分で決めて毎日それにしたがって行動するようにして、そうでなくずるずると一日を送っている、身体も自然頭もぼけてくるし、身体も自然にだめになると言われたものです。私も本当にその通りだと思いうに、できるだけ身体を動かすようにしています。

(親和会の会誌から転載)